

医療のフロンティア

◀76▶



生島 仁史

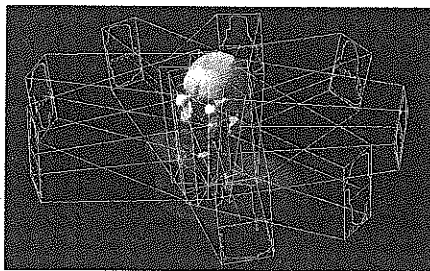
徳島大学病院
放射線治療科科長

1990年代以降次々と登場したハイテク装置により、放射線ががんを治す能力は格段に向上し、放射線治療は切らずに治す方法として注目されるようになってきました。

放射線治療の方法は大きく二つに分かれます。一つは体の外からエネルギーの高い放射線がんに照射する外部放射線治療で、「リニatron」と呼ばれる装置を用いています。徳島大学病院では最新のリニatronを3台設置し、1年間に700人以上の治療を行っています。

「リンポイント治療」や「強度変調放射線治療(IMRT)」と呼ばれる最新治療は、正常臓器を避けてがん放射線を集中させることができる照射法であり、従来の治療より高い効果が期待できます。一般的に外部放

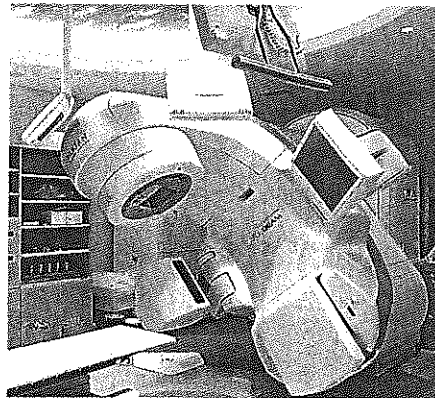
放射線治療



放射線治療は1カ月以上かけて毎日治療を行います。1回の治療時間は数分で終了し、痛みなどはありません。もう一つの治療方法は、放射線を出す小さな金属をがん付近に近づけて照射する小線源治療と呼ばれるもので、前立腺がんや子宮がんなどに適用されます。

放射線治療の最大のメリットは臓器の形態や機能が温存されること、体の負担が小さいため外来での治療が可能なこと。例えばは声帯にできた

正常臓器避け患部に集中



徳島大学病院で9月から稼働を始めた、新たな高精度外部放射線治療装置

早期がんであれば、外来効きやすい種類のがんで通院での治療により発声あれば大きなものでも治療を残したままがんを消すことが可能です。患者さんにとって放射線治療がよい治療になるか否かは、がんの進行度やがん細胞の種類によって決まるといえます。

一方で、がんによる痛みやむくみなどの症状を緩和することも放射線治療の重要な役割です。がんが骨に転移したことに伴う痛みは、80%以上の確率で和らげることが可能です。

また、がん細胞の種類も重要であり、放射線がコンピュータによる治療計画。多角度から強度を調節した放射線を照射することで、患部に線量を集中させる

最新技術で高い効果

(第2土曜に掲載)